

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

2013年 米づくり開始!

基本を踏まえつつ、臨機応変に対応していこう

3月22日、東京以西の各地では桜の満開が確認された。例年と比べて大変に早いということですが、こちらではマンサクがようやく満開になり、雪割草が見ごろを迎えたばかりです。南北に長い日本列島では地域ごとに季節の移り変わりに大きな時間差があり、私たちの目と心を楽しませてくれています。

私の集落では、昨年は残雪のために4月10日過ぎまでできなかった用水路の「春普請」を、今年には例年通りに3月末には実施する予定です。しかし、少し山間地になると2メートル前後の積雪が残っており、今年も大雪だったようです。

過日、柏崎・刈羽・小国有機農業推進協議

会では、「有機稲作の施肥研修会」を開催しました。残念ながら地域の皆さんの有機の反取は7俵以下であり、期待する8〜9俵には届いていません。「除草・抑草」が思い通りにいかず、いわゆる「草に負けてしまった」というのも大きな原因のひとつです。しかし、施肥のあり方にも問題はあるのでないかという点として研修会のテーマとして選択しました。

改良普及センターの協力で、各生産者の稲の生育状態や草の繁茂状況をデータとして提供いただき解説していただくことができましたが、予想通りに茎数不足と登熟不良という課題が明らかになりました。

一方、昨年晩秋に各生産者の水田土壌のサンプリング採取をおこない、共済組合と簡易土壌分析機を所有する生産者の双方で土壌分析をおこない生産者毎のデータ一覧をとりまとめ

資料配布しました。鉄が極端に少なく、苦土が大量に存在しているという共済組合の分析結果は当地域の土壌では考えられない結果であり、大変疑問があらまりましたが今後の検討課題です。簡易土壌分析をやつては土壌分析生産者からいたったいたに基づき施肥設計の考案方や施肥設計のやり方を発表してもらいます。

最後に新潟県農業総合研究所の古川研究員から、肥料の成分毎の働きや肥料の成分バラツキの重要性などに基づき、有機質肥料の特性などについてご指導をいただき、大変充実した研修会になりました。

有機の水田で、除草剤を使用せずに慣行田並みの除草を期待するとは最初から無理な相談であり、草に負けない程度で可能な範囲の抑草を心掛けて茎数を確保し、草が吸つ

てしまふ分の肥料を有機肥料の特性を考えながら、施肥量と施肥時期を検討する必要があります。しかし、毎年の天候によって稲の生育は大きく左右され、毎年稲姿は変わってしまします。基本を踏まえますが、稲の生育状態を見ながらその時、その時の応用が求められるのでしよう。

まずは活着用に優れた良質の苗を育てることから始めてはならない。3月末になれば種籾の選別や浸種が始まりますが、これが第一歩です。ひとつの作業に手を抜かず、しっかりとやりかたにもこだわり、作業計画をたて準備を始めていくところです。

しかし、3月は入学・卒業、転勤、そして行卒は勿論ですが様々な団体などの年度の切り替え等々でなくなく身回りの回りが慌ただしくて連日様々な日程が入り込み、育苗ハウスの準備も思うようにはかどっていません。

予測はしていたものの、T P Pの問題が一気に浮上してきてきました。安倍政権は高い国民の支持率を背景に、反対派を排除しながらアメリカとの約束や財界の要請に沿ってT P P参加に突き進むことでしょう。与党内にも反対派議員集団があるようですが、T P P参加を既定路線としてボーイズをとつていくに過ぎないといつたら言い過ぎでしょうか。沖繩の米軍基地移転や原簿の再稼働等も同様の手法で再稼働を緩めず、に押し進められるのでしよう。自民党安倍政権を選択したのは国民であり、いまだに高い支持率を与えているのですから、仕方のないことと諦めてしまいいただけは曲げることができませんし、お互いにその表明の時期と手段を求め続ける、ものです。

《内山 常蔵記》